

環境型産業としての農業の役割

八ヶ岳中央農業実践大学校就農準備校 講師 小平雅彦

長野県農政部を退職後、故郷の原村で営農の組織化、地域全体の水稻、蕎麦、野菜の認証を取得し、安全な農産物の生産、諏訪湖浄化等環境に優しい農業、夕日に輝く八ヶ岳を背景に古代ハスの花が咲き「鴨」が遊ぶビオトープや黄金波打つ稲田に並ぶ案山子のコンテスト、田園への数十体の鯉のぼりの飾りつけ等、地域の景観をみんなで守り楽しめ活力溢れるむらづくりに取り組んでいる。

同時に八ヶ岳中央実践大学校就農準備校で全国各地からの研修生の就農支援をしている。研修生には、早朝から東に富士山、八ヶ岳、南に甲斐駒ヶ岳、西に北アルプスを仰ぎ、澄んだ空気、豊かな緑、小鳥のさえずりの中で大自然と一体となった実習で農業のすばらしさを感じて頂いている。修了生からの就農相談、情報交換等実践大学校をコアとした交流が広がり、私の集落営農推進や農業委員、議会議員等、地域活動を推進する上で欠かすことの出来ないものとなっている。

去年は豪壮さから「天下に並ぶ祭なし」として知られる諏訪大社御柱祭が諏訪地域で行われた。実践大学校は御柱の出発地で多くの観光客が訪れる。御柱は直径1.5m、長さ17m、重さ15トンにもなる巨木を八ヶ岳山麓の深山より千人を超える氏子衆で曳き出し、諏訪大社の神殿の四隅に建立する祭りで、豊作、世相の安定を祈願する神事でもある。

各地に伝わる神事や祭りは食の原点である

豊作や災害のない平和な生活を祈ることが原点になっていることを忘れてはならない。

長野県は長寿県で65歳以上の高齢者が元気に活躍している。「高齢者就業率」は全国1位で更に原村は県内でトップである。要因はセルリー等高原野菜を基幹とした農業の村で高齢者も元気に働けることに加え、豊かな自然環境が健康な生活と暮らしを支えているからといわれている。また、元気な生活は医療費負担も少なく健康な村としても知られている。

日頃の活動の中で農業は環境保全型産業と考えている。農業者も農業を進める上で安全で信頼性の高い生産は当然のことであるが河川、湖沼等、自然環境へ負荷の少ない生産活動、ひいては農地、森林、河川、農道等の保全活動を通じて自然環境、農村景観国土保全を積極的に進めて行かなければならない。しかし個々の農業者の取り組みには限界がある。地域、集落をあげて取り組んで行かなければならない課題である。

自給率の向上、規模の拡大、農業生産の効率化重視だけでなく、農村・農地・森林の維持保全のために農業の果たす役割を国民的課題、政策として位置付けて真剣に取り組んでいかなければならないものとする。

(こだいら まさひこ)